

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

地歴・公民(1年)

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史A	2	普通科・理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	「世界史A 新訂版」(実教出版)		
教科書以外の教材（発行所）	世界史A新訂版演習ノート（実教出版）	最新世界史図説タベストリー（帝国書院）	

目 標	近現代を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、また人類の出現、農耕の開始以降、人類が手にしていった文明世界への道程。この時点以来の今日までに人類が与えられた諸課題を多角的に考察させることにより、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学 習 の ね	1 各地域の諸文明と交流 人類の出現、農耕の始まりなどが、渾然一体となつてはぐみだしたユーラシア世界を中心に形成されてきた諸地域世界の特質を、各地域世界の風土・民族・宗教などに着目させながら、総合的な観点の中に把握させてゆく。 2 結びつく世界と日本（一体化する世界） 16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。 3 地球社会と日本 地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について考察させる。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書、授業・課題プリント、資料集などをもとに諸観点から出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考查	ユーラシアの諸文明と交流
		第2回考查	東西世界の交流と諸地域、一体化する世界、
		第3回考查	アジアの繁栄、イスラーム世界の拡大、ヨーロッパと大航海時代、大航海時代と近代世界の確立へ
		第4回考查	帝国主義の時代展開、20世紀の特質、二つの世界大戦の前後の時代、民主主義の新展開とファシズムの時代、
	学年末考查	冷戦から共存へ、民族の解放と独立、東西問題の変遷とポスト冷戦、20世紀から21世紀へ	
評価の観点・方法	○評価の観点は、関心・意欲・態度、思考・判断、資料活用、表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査に加え、授業での考察・発表、授業ノートやプリントの確認、課題の提出などをもとに総合的に行う。 ○年間の評価には、長期休業中の課題追究学習への取り組みも加える。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	1年次に全員必修で「世界史A」を学ぶ。学習は①人類の出現、農耕の開始が始まるユーラシア世界の展開の学びと、②世界がより一体化していった帝国主義以降の世界と現代世界までへの学びをそれぞれを1つの区切りと位置づけて学んでゆく。①と②を「現代世界の成り立ち」に迫る学びのための両輪として、今の世界までへの道程を1年かけて展開して行ってみよう。この学びをベースにさらに、2・3年次では「世界史B」を選択することもできる。「世界史A」は人類の出現と農耕開始以降の古代を概観したあとは、近・現代を中心におもに学んでゆき、現代世界が抱える諸課題の解決法を探っていくためのものである。中学校の歴史おぼとけがわが国の歴史であり、高校で初めていくつかの国時々のピリオドごとの中心点を内容で掘り下げて学習することになる。学習のポイントは、膨大な量の知識を丸暗記するのではなく、「なぜか」という疑問を発しながら、諸事件・諸人物を歴史の流れの中に位置づけていくようにすることがたいせつである。 どの教科目でもそうだが学習の充実が何よりたいせつであるので、そのためには予習が欠かせない。授業日の前には、1回1次の範囲の教科書の内容を目を通してゆこう。理解が深まってゆけよう。授業では、PCなどのプレゼンテーションの示す事例や教科書の内容などの説明を集中して聞き、地図確認作業やノート代替の授業プリントの整理にしっかりと取り組もう。出される授業課題などは着実にこなして提出しよう。1年が経過する頃には人類史的歴史課題について自分で何かを見定め、解決への糸口へのアプローチがおぼろげながらもみえてゆくはずだ。		

年 間 授 業 計 画 表 世界史A				
学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	第1部ユーラシア諸文明と交流 序章 文明の始まり 第1章 ユーラシア諸文明の特質 1 西アジア世界・イスラム世界 2 ヨーロッパ世界 3 南アジア・東南アジア世界 4 東アジア世界・内陸アジア世界	6 4 1	○人類の出現の過程と農耕の開始について考えること出発点、以来今日までの日本人と世界史の関連について考える。 ○風土、生活、宗教、文化などの観点から・各世界の特質を学ぶ。 ・陸と海の世界の交流（ユーラシアを中心に） ○各文明圏が戦争や交易、人の移動、文化の伝播を通じて、互いに重要な影響を与えていたことを理解する。
	5	第2章 ユーラシアの交流	1	
期	6	【第1回定期考査】 第2部結びつく世界と日本 第3章 一体化に向かう世界 1 ルネサンスと宗教改革 2 ヨーロッパの主権国家体制 3 大航海時代	4	○ルネサンスと宗教改革を学び、中世の封建社会、および教会中心主義から個人主義が生まれることが近代の幕開けを生むことを学ぶ。 ○大航海時代のヨーロッパ人の海外進出と諸地域の交流を学習し、16世紀の世界の一体化への動きを理解する。

7	《第2回定期考査》		5	○明・清時代の中国の発展を学び、周辺地域の動向を把握する。 ○イスラーム専制王朝の変遷と特色を理解する。 ○17～18世紀のヨーロッパにおける主権国家体制の成立を理解する。 ○ヨーロッパ諸国の世界進出をおおまかに把握し、世界の一体化がヨーロッパを中心に始まったことを理解する。
	第4章 アジアの繁栄と世界	1 アジアの繁栄 明・清時代の東アジアと東南アジア 2 イスラーム世界の再編成 オスマン帝国の繁栄		
9	第3部 近代のヨーロッパ・アメリカと世界の変動		10	○科学革命と啓蒙思想の発展が変革に与えた影響を学ぶ。 「クロスカリキュラム」(サイエンスタイム)として実施 ○産業革命の背景・展開・影響について、また、アメリカ独立革命の背景・展開について理解する。 「クロスカリキュラム」(サイエンスタイム)として実施 ○フランス革命からナポレオン時代、続く19世紀前半のヨーロッパ社会について把握する。 ○18世紀後期以降の諸革命と市民社会、国民国家形成の過程を理解する。 ○19世紀後半の欧米諸国で国民統合がすすみ、市民社会が形成されたことを学ぶ。 ○ラテンアメリカ諸国の政治や社会の特色をその独立過程から考察する。
10	第5章 19世紀の世界の一体化と日本	1 イギリス産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命 4 ウィーン体制とその崩壊 5 ヨーロッパ国民国家の発展 6 アジア・アフリカ・アメリカ大陸 7 東アジアの変容と日本の近代化		
	《第3回定期考査》			
11	第4部 地球社会と日本		4	○ヨーロッパの進出による世界の一体化がアジアの従属化や変革をもたらすようになっていったことを理解する。 ○国主義時代の社会的特色を把握し、アジア・アフリカなど地球規模で植民地化が進行していったことを学ぶ。 ○列強により植民地とされたアジア諸地域の民族運動を理解する。 ○20世紀の社会的特色を概観し、文化や国民のあり方について考える。 ○第一次世界大戦によってもたらされた影響を理解する。 ○第一次世界大戦後のアジアの民族運動の高揚を把握する。 「クロスカリキュラム」(サイエンスタイム)として実施 ○ファシズム台頭の背景と展開を学ぶ。 ○第二次世界大戦の背景と展開を把握し、その意義を理解する。
	第6章 二つの世界大戦	1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦		
12	《第4回定期考査》			
1	第7章 第二次世界大戦後の世界と日本		15	○冷戦構造が形成されていった情勢を把握し、アジア・アフリカ諸国の台頭を理解する。 ○米ソの動揺によって冷戦構造が変容していったことを学ぶ。
	第8章 現代の世界	1 統合へ向かうヨーロッパ 2 アメリカ・ラテンアメリカの動向 3 西アジア・アフリカの混迷 4 南アジア・東南アジア・オセアニアの動き 5 大国化する中国と東アジアの変動		
2	終章 持続可能な世界を目指して		2	○1970年代以降、世界経済の構造的変容によって、国際関係が大きく変化していったことを理解する。 ○諸地域の再編成と固有の問題について考える。 ○現代の諸問題について、主題を決めて問題を追究する。 「クロスカリキュラム」(サイエンスタイム)として実施
	1 巨大技術と人間 2 人が人らしく生きるために 3 環境問題と私たち 4 なお続く紛争			
	《学年末考査》			
総 時 間 数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
公民	現代社会	2	普通科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	地歴公民担当者		
教科書（発行所）		『高等学校改訂版現代社会』（第一学習社）		
教科書以外の教材（発行所）		『フォーラム現代社会2019』（とうほう） 『改訂版 現代社会ノート学習事項の整理と問題』（第一学習社）		
目 標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
学習のねらい	現代社会について多様な角度から理解させるとともに、青年期の意義、経済活動の在り方、政治参加、民主政治の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割などについて自己とのかかわりに着目して考える。			
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に準拠ノート、資料集などから出題する。		
	第1回考查	現代に生きる青年・地球環境問題		
	第2回考查	資源エネルギー問題・生命倫理・高度情報社会		
	第3回考查	個人の尊重と法の支配・現代の民主政治		
	第4回考查	国際政治・現代の経済生活		
	年度末考查	国際経済・現代に生きる倫理・ケーススタディ		
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、現代社会の諸問題への関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查に加え、授業中の作業・演習で考察し、まとめた提出プリント、休業時や週末課題などを適切に活用して総合的に行う。 知識・理解を7割から8割。授業中休業中などの課題提出・授業中の小テストなどを2割から3割。それぞれのトータルで最終評価を構想中。			
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の社会に関する必要な情報、正確な情報を多角的に収集・整理しよう。そして、現代社会が抱える諸問題を公正な立場から分析・理解しよう。さらに、現代社会を成り立たせている過去の歴史や文化について考察してみよう。 予習・復習は教科書準拠の「新課程用現代社会ノート学習事項の整理と問題」や資料集「フォーラム現代社会2017」なども利用すること。			

期	7	第 1 編	私たちの生きる社会		・国連や国内外の温暖化対策
			1章 地球環境問題	4	・資源・エネルギーの有限性と対策
			2章 資源・エネルギー問題	3	・ゴミ問題とリサイクル、3R
			3章 科学技術の発達と生命倫理	3	・i p s細胞や遺伝子医療の発展と尊厳
			4章 高度情報社会と私たちの生活	2	死・臓器移植の持つ意味、生命倫理
			《第2回考査》	1	情報の活用と諸課題
後	9	第 2 編	*地球環境問題、資源・エネルギー問題、 科学技術の発達と生命倫理は、「クロスカリキュラム」(サイエンスタム)として実施する		
			2章 個人の尊重と法の支配	3	・社会契約説
			1. 民主政治における個人と国家	3	・基本的人権の保障と法の支配の意義
			2. 基本的人権と法の支配	3	・おもな政治体制と民主政治の実現
			3. 世界のおもな政治体制	3	
			3章 現代の民主政治と政治参加の意義		
期	10	第 2 編	1. 日本国憲法の基本原則	3	・憲法成立過程と基本原則
			2. 平和主義と安全保障	3	・平和主義と安全保障の意義
			3. 基本的人権の保障と新しい人権	3	・新しい人権とは何か
			4. 国民主権と議会制民主主義 など	3	・国会の地位と権限
			《第3回考査》	1	
			4章 国際政治の動向と日本の役割		
	11	第 2 編	1. 国家主権と国際法	1	・国際法の意義と役割
			2. 国際連合の役割	1	・勢力均衡と集団安全保障体制
			3. 今日の国際社会	2	・戦後の国際社会と冷戦終結前後の社会
			4. 核兵器の廃絶と国際平和	1	・核兵器の拡散と核軍縮、核廃絶への道
			5. 国境と領土問題など	3	・国境や領土問題、日本の領土問題
			5章 現代の経済社会と私たちの生活		
	12	第 2 編	1. 経済社会と経済体制	1	・資本主義経済、社会主義経済の特徴
			2. 現代の企業	1	・企業・家計・政府の活動
			3. 市場経済のしくみ	2	・市場経済のしくみ、価格機構
			4. 経済成長と景気変動	1	・景気変動の特徴、国民所得
			5. 政府の経済的役割と租税の意義	1	・財政政策の役割、租税の意義
			6. 金融機関のはたらき	1	・金融機関（日銀や市中銀行）の役割
	1	第 2 編	7. 戦後の日本経済の動き	2	・高度成長やバブル経済前後の動き
			8. 産業構造の変化	1	・産業構造の高度化
			9. 雇用と労働問題など	3	・雇用事情の変化と労働条件
			《第4回考査》	1	
			6章 国際経済の動向と日本の役割		
			1. 国際経済のしくみと貿易の拡大	2	・円高、円安のしくみと影響
	1	第 2 編	2. 国際経済の動向	2	・日本の貿易や貿易摩擦
			3. 発展途上国の経済と南北問題	1	・南北問題
			4. 国際協調と日本の役割	1	・地域的経済統合、FTA、EPA
			7章 現代に生きる倫理		
			1. 豊かな人生を求めて	1	・哲学や宗教の役割
			2. 日本の伝統的なものの考え方	1	・生活の中の仏教や西洋思想
	2	第 3 編	3. 西洋の自然観と人間観	1	・科学的合理的なものの考え方
			4. 私たちの課題	1	・人間の尊厳
			ともに生きる社会をめざして		
			ケーススタディ①	2	・資料や統計などを活用して多面的に考察、発表、表現
			税と社会 など		
			《年度末考査》	1	
			総時間数	78	